

茶新品種「うんかい」について

間曾竜一・米元孝一・平川今夫・向井 康

(宮崎県総合農業試験場茶業支場)

MASO, R. YONEMOTO, T. HIRAKAWA, I. and MUKAI, Y.

On the New Variety of Tea Plant "Unkai"

宮崎県総合農業試験場茶業支場において育成中であったA15は昭和45年5月、緑茶用新品種うんかい(茶農林29号)として登録されたのでここに育成経過ならびに特性の概要を述べ参考に供したい。なお本品種育成に直接従事したのは(故)柏木登ほか8名および筆者等である。

来歴ならびに育成経過

うんかいは昭和27年宮崎県総合農業試験場茶業支場(当時は宮崎県農業試験場川南分場)においてたかちほ(当時は宮崎9号)を母とし、F<sub>1</sub>9-4-48(MA23×MC3の組合せで昭和9年交配のF<sub>1</sub>系統)を父として人工交配を行ない、昭和33年宮崎県総合農業試験場茶業支場(当時は上と同じ)に設置された茶樹育種指定試験においてF<sub>1</sub>個体群の特性調査が行なわれA15の個体番号が付された。昭和36年より系統比較試験が開始され翌37年から熊本県、静岡県(県立)、宮崎高冷地科の3か所、40年から静岡県(農林省)、宮崎経営農場において本系統の適応性が検討され緑茶用新品種うんかいと命名された。

特性の概要

形態的特性：樹姿は中間型で、枝条はよく生育し株張りが大。葉色は濃緑色で光沢に富みなめらかである。成葉は中型のダ円形で内折度、反転度が小さい。幼芽はアントシアンをうすく帯びた緑色で光沢がある。

生態的特性：中生種で、発芽期はたかちほよりやや遅く、摘採期はやや早い。樹勢強く初期生育がおお盛であり、初期より多収でたかちほに比し安定した多収性を示す。耐病性、耐寒性強く育苗も容易である。

品質的特性：かまいり茶として締りが良く形状は良好である。水色はたかちほに比べいくぶんうすいが、香気がすぐれ滋味は温和で良好である。化学成

分としてN素含量はたかちほと同じであり、タンニン含量は一番茶において約1%低い。

適地

熊本県、宮崎県を中心とした九州中、南部の中山間地および平坦地のかまいり茶地帯。

栽培上の注意事項

中間型の樹姿で仕立てやすく株張りが大きくなるので余り密植しないこと。二・三番茶芽の生育は茎の硬化度が早いいため適期摘採を行なうこと、生長量が大きいため施肥量を増す必要がある。

命名の由来

適地である山間地帯の雲海をあらわし、雲のごとく広く普及する意味をもった。

一般特性

項 目		品 種 名	うんかい	たかちほ
生 育 状 態	樹 姿	中 間	直 立	
	樹 勢	強	やや強	
	早 晩 性	中	中 早	
	耐 寒 性	強	やや強	
	耐 病 性	強	やや強	
収 量 9 年 生 kg / 10 a	一 番 茶	1,144	846	
	二 番 茶	1,061	795	
	三 番 茶	774	643	
	計	2,979	2,284	
	指 数	130	100	
品 質 かまいり茶 一・二・三番 茶 平 均	形 状	16.3	16.2	
	色 沢	16.1	16.2	
	香 気	17.5	17.4	
	水 色	17.0	18.2	
	滋 味	17.3	17.5	
計	84.2	85.5		